



会長 完賀 浩光 幹事 栗野 哲雄

- 例会場 L'AUBE kasumigaura
TEL.029-875-8888
- 例会日時 火曜日 12:30～13:30
- 事務局 土浦市真鍋1-2-6 金塚ビル3F
TEL 029-823-4524 FAX 029-869-9006
- ホームページ <http://tsuchiura-south-rc.com>
- Eメール t_minami@lapis.plala.or.jp

2024～2025年度
国際ロータリーテーマ



谷神・抜山銃

2025年3月11日 29号
2025年3月4日 第1例会報告



地区 HP



地区行事予定

- | | | | |
|------------------------------------|---------|----------------------------|-------------------|
| 1. 点 鐘 | 完賀浩光会長 | 9. 来賓卓話 | |
| 2. 国歌並びにロータリーソング斉唱
(君が代)(奉仕の理想) | | 霞ヶ浦市民協会 理事長 市村和男様 | |
| 3. 来賓紹介 | | 10. 出席状況報告 | 出席委員会 |
| 4. 会長挨拶 | 完賀浩光会長 | 11. 点 鐘 | 完賀浩光会長 |
| 5. 幹事報告 | 栗野哲雄幹事 | 12. ロータリーソング斉唱
(四つのテスト) | |
| 6. 3月お誕生日の会員および配偶者のご紹介 | 親睦活動委員会 | | (司会進行 吉田正一 S A A) |
| 7. 委員会報告 | | | |
| 8. ニコニコBOXの発表 | | | |

本日のプログラム

一般社団法人 土浦青年会議所 三谷将史理事長、
細川貴大副理事長、北島大輔専務理事をお迎え致します。

次週のプログラム

3月18日(火)の例会は、つくば国際大学 東風高等学校インターアクトクラブの皆さんから活動報告を伺います。

出席状況

会員数	出席数	出席免除	出席率	全員出席卓	3名以上欠席卓	メイクアップ	出席率訂正
名	名	名	%	卓	卓	名	%
88	62	5	72.94	2・4	11・12・13	5	78.82



皆さんこんにちは。

昨日降雨・降雪がありました。私たちの住むこの関東において、この冬の降水量は例年の20%程度。極端に雨が少ない年とされています。

しかしだからと言って、私たちは『水』に困ることはありません。これは私たちにとっては、特にこの地域に住む者にとっては、当然のこと、ごくごく当たり前の事であると感じてしまいますが、世界中を見渡せば、私たちは特別に恵まれた場所に住んでいると言えるかもしれません。

今日は霞ヶ浦市民協会の市村理事長においでいただいております。後ほど霞ヶ浦の現状や果たしてきた役割などについてお聞きできると思いますが、今月のRIテーマは『水と衛生』です。

『水』を考えるとということは、『命』を考えるとということです。『水』の安全保障は何をおいても最も大切なことであると、私は思います。

今は世界中の約半数が水道を使えるようになったと言われてはいますが、それでも未だに6億6,300万人もの人が、安心して飲める水を確保できていない状態で暮らしています。そしてその半数近くがサハラ以南のアフリカに集中しているのです。アフリカの多くの国は発展途上国であり、またその中でも都市部とそうでない場所ではその設備の差に大きな開きがあります。

また内戦や紛争などで住む場所を追われてしまい、水道施設や衛生的な施設がない環境に置かれている人々もいます。

どちらの状況でも水道施設などインフラが整備されておらず、すぐに水が手に入らない状態です。

これは日本のような浄水処理ができていないだけでなく、井戸などの貯水施設そのものがないためでもあります。仮にあったとしても、底が浅い井戸が多く、水が風などにさらされ、衛生的にも良くない状態のところが多くあります。

安全な水を使えないというのは、そこに住んでいる人々、特に子どもたちには多大な影響を与えます。

やむを得ず不衛生で汚れた水を使うことで、2017年の段階で年間にして約30万人、毎日800人以上の乳幼児が、汚れた水を原因とする下痢症で命を落としています。

また子供たちの健康面へのリスクが高いだけでなく、将来的なリスクもあります。

アフリカの農村地帯の多くは水道施設がないために水を汲みに行く必要がありますが、その担い手の多くは子どもや女性です。それほど遠くない場所に水汲み場があったとしても、1日の水を確保するために何往復もする必要があります。1日の大半を水汲みという重労働で終えてしまうため、彼らには勉強をする時間がありません。勉強ができないということは、子どもたちの将来を奪ってしまうことと同義であり、教育を受けられないために大人になり安定した給与がもらえる職に就けない人が多くいます。そしてこういったことが改善されずただ繰り返されるだけなら、それは国の未来を失うことと同義です。

つまり、今なお世界では多くの場所で水や衛生環境に問題があり、人々の生活を脅かしている。その半数以上がアフリカであり、安全な水を確保できないことで子どもたちの命に危険が迫り、また将来につながる道さえ奪われている。そしてそれは国の未来を失うことになっている。という現状を私たち一人一人がまずしっかりと認識することが大切だと思います。

そして、このような現状を解決するためには、どうしたらいいのか？ロータリアンとして何が出来るのか？他人事としてではなく、しっかり受け止め、考えていくことが大切だと私は思います。

今日はたいへん寒い例会日となりました。真冬に逆戻りといった感じです。日本には四季があって、春も三寒四温を繰り返してゆっくりとやってくるといった風情を楽しむどころではなく、なんでこんなに寒いんだと、ぼやきの一つくらい眩きたいところですが、3月は年度末。多くのことが今月でひとくくりとなる大切な月となります。どうかご自愛ください。会員皆様方の健康でのご活躍を祈り、月初の挨拶と致します。

今月もどうぞ宜しくお願い致します。

【委員会報告】

雑誌委員会

磯山貴洋委員長

「ロータリーの友」3月号の見どころをご紹介します。

今月は「水と衛星月間」、4ページに月間に関するR I会長メッセージ、7ページは「トイレが使えない恐怖」と題して、災害時のトイレ事情に関する月間特集記事です。15ページは次年度R I会長の紹介記事、21ページに大高司郎ガバナーの投稿が掲載されています。その他、しもだて紫水RCの行っている「ペンシルプロジェクト」の記事、財団管理委員長のメッセージ、カルガリー国際大会の紹介記事です。

また「この人訪ねて」は岡山西RCの平野幸司さんの紹介記事、元警察官で犯罪コメンテーターの佐々木成三氏の講演要旨で特に特殊詐欺に対する防犯についての記事が掲載されています。

【来賓卓話】

霞ヶ浦市民協会 理事長 市村和男様



皆様こんにちは。霞ヶ浦市民協会、第4代理事長の市村です。

霞ヶ浦市民協会は今年で29年目となります。私は2回目の卓話となります。前回は2018年、稲野邊会長の時で、この年は第17回世界湖沼会議が霞ヶ浦で開催されました。

メイン会場はつくばの国際会議場でしたが、前年に開催された4か所のサテライトのうち、土浦サテライトの責任者は、当時協会の副理事長だった阿部さんで、四つのサテライトを束ねて見ていただきました。

説田さんには、当協会の監事を、栗野さんには運営専務をしていただいております、非常にお世話になっています。本日は、当協会の事業の内容を簡単にご紹介いたします。

一般社団法人
霞ヶ浦市民協会
事業概要




2024.11.09

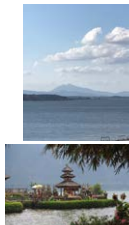
霞ヶ浦市民協会の設立から
「泳げる霞ヶ浦2020市民計画」へ

- 一般社団法人霞ヶ浦市民協会は、第6回世界湖沼会議・霞ヶ浦95「霞ヶ浦宣言」の理念を継承する市民たちが、職種や立場を超えたパートナーシップで結びつき、行動するための市民ネットワークである。
- 市民参加を成し遂げた世界湖沼会議
- 1995年、第6回世界湖沼会議が霞ヶ浦を舞台に開催されるにあたり、茨城県は多くの団体・個人に声をかけ、この世界湖沼会議を、専門家や研究者だけの学術会議ではなく、一般市民も積極的に参加しての意義あるものとするを意図した。結果、多数の市民（団体や個人）が参加する「世界湖沼会議市民の会」が結成された。
- 第6回世界湖沼会議は同会議では初めて、一般市民を含む約8千人の参加を得た。
- 市民・行政・企業・研究者がパートナーシップ精神のもとに集結し、霞ヶ浦への関心を深めた。これを何らかの形で継続すべきだという意見が大多数を占め、翌年、霞ヶ浦情報センター(当時)と合併し、「社団法人霞ヶ浦市民協会」の設立に至った。
- 「霞ヶ浦宣言」の精神を継承・尊重し、この精神を、誰もが容易に理解できるよう、「泳げる霞ヶ浦」というキャッチフレーズを、目標として掲げることを決定した。


霞ヶ浦市民協会の基本理念



- 「我々は湖の音に耳をかたむけ、人々、なかんづく女性と子供の声、また、科学の英知に深い注意を払おうではないか。さらに、過去の教訓に学んで将来の過ちを回避し、未来へのビジョンを描き、恒久的な持続性を達成することを期待する。我々の子供たちに、また、まだ生まれぬ子孫に対して恥ずかしくない遺産を残すために、このことを願うものである」。第6回世界湖沼会議・霞ヶ浦95-『霞ヶ浦宣言』は、この言葉で結ばれている。
- 世界75カ国、地域や言葉を超え8,200人もの人々が集まったこの会議の参加者の強い意志と熱意を活かすために、『宣言』の精神を継承し、互いに耳を傾け合い、過ちと目を閉ざすことなく、霞ヶ浦という風土の中で培ってきた市民の英知を結集し、活動していく。
- 本会は、次世代に豊かな湖沼を遺したいという世界共通の思いの実現に向け、社会に信頼される公益法人として、あらゆる人々の力を集約する拠点として邁進する。



泳げる霞ヶ浦2020市民計画 基本構想




自分たちができるところから始めよう！
少しでも霞ヶ浦に触れよう！
家庭から取り組もう！
身近な川から行動しよう！
農林漁業者・企業等に働きかけよう！

「泳げる霞ヶ浦」にして次の世代へ

- 【里づくり事業】と【霞ヶ浦連携事業】
- 【活動実績事業】
- 【5つのプロジェクト】
 - 「暮らし」
 - 「身近な川」
 - 「水辺交流」
 - 「地域経済」
 - 「人とひと」


①「泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル」事業
《水辺の交流》

- 水辺の交流からフェスティバルへ
- 第1回は社団法人霞ヶ浦市民協会の設立記念式典とともに開催。4者パートナーシップでの水辺の交流イベント
- ウォーターエリアでのターザンジャンプ、水上フラッグバトル、ヨットやカヌー試乗、投網体験、魚獲りなどのほか、ラウンドエリアでの音楽、ダンス、遊び、環境学習なども実施
- 「泳げる霞ヶ浦」という共通の目標を持ち、毎年6,000～8,000人が集う、地域交流の場である。
- 泳げる霞ヶ浦市民フェスティバルは、市民交流のお祭りでもある。



- 地域と人とまちづくり
～泳げる霞ヶ浦を目指して

- フェスティバルの規模が大きくなり、予算の確保や関係者の大きな負担が課題となる。
- 開催には、地域住民の理解と協力が不可欠。
- 2018年、これらの課題を乗り越えて新たな出発を図るべく、フェスティバルは一旦休止。近い将来、何らかの形で開催を計画中。
- 2024年8月、行方市麻生の天王崎湖畔にて湖水浴をする「真夏の冒険！」を開催。事前の水質確認、安全確保のもと、子どもたちが実際に「泳げる霞ヶ浦」を楽しんだ。



②「いばらき湖沼市民会議」事業 《市民たちの交流》

■他の湖沼流域での市民活動に学ぶ

- 主な活動内容として、市民活動の先進地の視察訪問、それに伴う各種シンポジウムの開催。「自分との約束～わたしのコミットメント」、交流イベントほか。
- 現在まで、琵琶湖流域（滋賀県）、宍道湖・中海流域（島根県・鳥取県）の行政・市民団体・企業等を訪問

■次世代を育てる～ハイスクール会議

- 高校生たちが、水環境や霞ヶ浦の諸問題等を独自の視点で考察し、湖沼と流域の将来像とその方策等について発表・提言する場。
- 専門家の講評・アドバイスを渡し、意見交換し、今後の研究や生活に活かす。将来の人材育成につなげる



③「里浜づくり」事業 《人と湖の共生》

■協会設立から「里浜」の提案まで

- 昭和40年代初期までは霞ヶ浦沿岸に複数の遊泳場があり、人々は水に触れ、入り、泳いでいた。
- 砂浜は水辺の浄化機能を持つほか、憩水空間でもある。
- 『里浜』とは、人々の暮らす「里」と、霞ヶ浦の「浜」との結びつきを象徴する言葉である。

■「里浜」への道のり

- 主に土浦市の湖岸の視察と勉強会を重ねた結果、手野町石田地先に里浜をつくることとした。
- ヨシ等の植物は繁茂するが、人々が利用する砂浜再生の場所として適しており、現在もモデルケースとして管理・活用している。



■「里浜」の維持管理と活用

- 2015年、地元建設機械メーカーの全面協力のもと、約600㎡にわたる前浜部分のヨシを抜根した。
- 以降は人の手による継続的な整備作業で前浜（砂浜）を維持し、活動の場としている。

■「里浜」から「泳げる霞ヶ浦」へ

- 砂浜は常に維持が必要であり、日常生活の中で利活用しながら維持管理していくことが望ましい。
- 子どもたちを対象に「湖岸清掃」「自然観察会」「水辺の遊び（紙ヒコーキ遊び）」「投網体験」などを行う『霞ヶ浦探検隊』を実施。
- 幼稚園児を対象とする「砂浜づくり」では、前浜の一角に砂を選び、小さな砂浜をつくる試みを実施。



④「里山再生」事業 《どんぐりの里子作戦》

■どんぐりの里子作戦とは

- 霞ヶ浦流域に里山、平地林を蘇らせることで、霞ヶ浦の再生や水質浄化に寄与しようと、1999年、どんぐり（クヌギ等の種子）を発芽させ、それを各家庭等に里子に出して苗木に育て、2年後に一斉に山に植え替えた。
- 個人の土地の提供を受け、約1,500本の苗木を植林。結実し、甲虫類や国産オムラサキなど多くの昆虫を確認、里山として機能し始めた。この里山で、昆虫観察会を実施し、環境学習と遊びを兼ねている。
- 間伐材を利用した椎茸の原木やチップづくり、どんぐりのおひな様づくり、木の実の工作なども開催している。
- 里山と里浜はつながっている。里山の整備や維持が、下流の河川・湖沼の水質にも貢献する。



⑤「泳げる霞ヶ浦ビジョン」事業 《2030市民計画へ向けて》

- 2020市民計画を経て、新たに2030年に向けての計画を進めるとともに、現在進行中の課題に取り組む。
- 「まちかど探検隊」を企画、霞ヶ浦をはじめとする湖沼・河川につながる地元の歴史や習俗などを再確認するため、参加者が実際に歩いて地域を探索する。
- 今後の課題としては、会員の高齢化、若い世代の会員拡大、SNSの活用のほか、活動資金の確保が挙げられる。
- これからの環境活動には、活動することで同時に循環する経済も必要になる。ボランティアに依存する時代は過ぎ、市民活動を維持していくためには経済の確保も重要。そのため、多角的な視野と企画、その実践が求められると考えている。



受託事業・参加事業

●受託事業

- 流入河川水質一斉調査受託事業
- 自治体受託事業

●参加事業

- 探検隊事業（桜川・巴川・恋瀬川・小野川）
- 霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生協議会
- 霞ヶ浦グラウンドワーク
- 土浦市中心市街地活性化協議会
- 筑波山ジオパーク
- 常陸小学生新聞「霞ヶ浦博士」記事提供
- 「身近な水環境の全国一斉調査」ほか

